

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「命をささえる税」

国分寺市立第一中学校 2年 山田 優羽

私は今年、入院しました。以前から腎臓が悪いと診断されていて本格的な治療にさしかかるためです。腎臓の検査をするために入院したことはあったのですが、今回は前よりももっと長い入院だったので不安でいっぱいでした。1ヶ月ほど入院し、無事に退院することができました。

退院する時、母が入院にかかったお金を支払いにいきました。私はまたそこで少し心配になりました。なぜなら私の中で入院はものすごくお金がかかるイメージがあったからです。1ヶ月も入院してしまいどれだけかかってしまうのだろうと思っていました。しかし母からは思ったよりもだいぶ少ない金額しかかからなかったことを知り、私はびっくりしました。そこで税金が使われていることを知り、大勢の人に助けられたと感じ感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

夏休みに入り、税についてもっと調べたところ他にもいろんなところで税にお世話になっていることを知りました。学校で税について学びましたが、なんとなく理解しているだけの状態でしたのでより税について理解が深められて良かったです。

今、日本は少子高齢化が進み危機的な状況です。税は年金や医療にも使われているので当然負担がどんどん増えています。でも子供が減っているので今までの税の仕組みでは税金を払う人の負担が大きくなってしまいます。私にできることは少ないですが、大人になったらしっかり税を納めてやるべきことを果たしていきたいです。そして今は教科書や公共の物を大切にします。そして無駄遣いをしない、ごみを減らす努力をします。税金について調べたとき、ごみの処理には莫大な税金が使われていることを知りました。私の家でも食べ残しや賞味期限が切れて捨てるなどのフードロス、ティッシュの無駄遣いなど見直すべきところがたくさんあると思います。一人一人の力は小さいかもしれませんが、みんなで努力すれば大きな力になると信じています。